

山首上人さまご講演

生きてゆく基本

よ
こころ
良き心の薬
くすり



「アンスリューム」

あれもこれもと、求めすぎていませんか

よ
良き心の薬(こころぐすり)

わからぬことを言う人は、
気の毒な人だと思つて堪忍しましょう。
さらに進んで、

人に感謝されるように働きましょう。

感謝されるように働くことは仏様の働きで、

大慈悲の働きです。

必ず知らぬ間に心の悩みも治り、

肉体の病も治りましょう。

それ故、法華経の教えは、

よ
良き心の薬と言われているのであります。

|| 御開山上人御遺稿・話の泉 ||

わからぬことを言う人とは、頑固で、

自分本位の人のことです。

人はそれぞれ自分の意見、考えを持つて

います。もちろんそうあるべきですが、し

かし、一度言い出したらもう何があつても

人の言うことを聞かないとか、自分の考え

を変えようとしなないのは問題です。人間は

人の間で生きています。たとえ家族の間でも、自分のことだけでなく他の人のことを考えてゆかなければなりません。

杉山先生が堪忍を守る秘訣について、次のように述べておられます。

誰しも怒る時は必ず相手があるもので、相手を同等の者と思えば腹も立つが、相手は取るに足らざる子どもだと思えば、腹も立ちません。もし一度怒りの起こった時は、自分も子どもになったのであります。おっしゃる意味はわかりますが、いざその場に立つとむつかしいことです。何かあればつい一緒になって、何を、この〇とや

り合ってしまうのが人の常です。その時、

この人は子どもなんだと思えたら、少しは気分もおさまるように思います。人間関係は対等ということも大事ですが、何もかも対等と思つてゆくと、ひずみが出る場合があるかも知れません。

頑固で自分本位の人はどこにもいるものです。昔「鋼奉行」と言われる人がいました。今もいるかも知れませんが、すきやきなどの鍋料理の時、ドンと中心に座わつて味付けから何から、全部自分がしなければ気がすまない人です。他の人が味付けを変えようとしても、決して許しません。少

し醤油辛いから、砂糖を入れたらどうですか」と言っても「いや、これでいいんだ」と言つて聞き入れません。

こういう人はどうも遺伝するようです。

お寺では以前、役員会の後にすきやきをしていました。総代さんの一人が鍋奉行でした。私も一緒に頂きましたが、辛くても甘くても文句は言えませんでした。その方が亡くなつて、役を息子さんに代わつてもらいました。やはり鍋奉行でした。

すきやきを食べる時くらいなら少々頑固を通されても問題はありませぬ。というより、そういう人が一人いてくれた方が、他

の人は楽でいいものです。しかし、人生万端その調子でゆくと、少々問題があるように思います。

家族で外へ食事に行こうとする時も、同じようなことが言えます。何を食べるか、

全員の意見が一致すれば問題ありませんが、

私は中華がいい、私は和食を……と

お互いが言い張つて引かなければ、まとまりません。そういう時にはみんなの意見を

聞いて、この前は中華だったから、今日は

和食にしよう、というように順番にすると

か、時には人の意見に随うことも大切なこ

とです。どの道、何を食べても人生に影響

するようなことはないのですから、あまり頑固を通して問題を起こさない方がいいと思います。

とにかく、自分本位の頑固な人に対して対等にやり合っても始まりません。

「ああ、この人はこういう人なんだ。自分しか見えない気の毒な人だ。子どもと同じだ」と思つてゆくことです。失礼かも知れませんが、少し上から目線「でゆくのがいいと思います。

— 何事もいい方に考えてゆきましょう —
人に感謝される働きは仏様の働きで、大

慈悲の働き」と言われています。頑固人にはできにくいことかも知れませんが、言葉で、行ないで、まわりの人を喜ばせてゆくことはその人がすることではありますが、同時に「仏様がそうさせて下さる」というふうにご考えてゆくといいと思います。仏様の働きをさせて頂くのですから、自然に心は落ち着くと思えます。

最近のように複雑な世の中になりますと、心の悩みが増えてきます。それをそのまま放置しておく、体まで病気になるかねません。

心の悩みを取る一番の方法は、他の人を

喜ばせてゆくことに尽きると思っています。

病氣は「気の病」と書くように、心がいびつになると体も影響を受けます。いびつになつた心は、徳を積むことによつてのみ、正すことができます。

如来寿量品に「是好良薬」とあります。

法華経は心の悩みを癒す良薬ではありませんが、どんな良薬でも飲まなければ効くことはありません。また、薬の名前をたくさん知つていても、いくら高価な薬を持つていても、それだけでは何の意味もありません。

薬を飲むということは、法華経を実行するということです。慈悲・至誠・堪忍を

行すると、効き目が現われてくるのです。

慈悲は、思いやりのある広い心で人に接することです。

至誠は、その心を持ち続けることです。

堪忍は、怒らないと同時に貪りをしない、愚痴を言わないといったことです。

人は皆、いろいろな願いを持っておりますが、誰もが幸福に暮らしたいと願つていますが、はたしてその願いが叶うような生き方をしていくのでしょうか。

世間を見渡しますと、全く逆のことを平気でやっている人がよく見られます。夫婦仲良くしたいと言いながら、けんかの種ば

かり蒔まいている人もいます。知しつてか知らずか、願ねがっていることと逆さかのことをしている人が多おほいのです。幸福こうふくになりたいたいと願ねがいながら、愚痴ぐち・不足ふそくの多い矛盾むじはんした生き方をしていてはいけません。

愚痴ぐち・不足ふそくを思おもわないようにするために、今いまあることを喜よろこんでゆくことです。

今いまを喜よろこべと言いわれても、私わたくしにはお金かねもなし、体からだも不自由ふじゆうなところがあつて、喜よろこべることなどありません。と言いわれるかも知しりません。しかし、身みの回まわりを見直みなおせば、喜よろこべることはたくさんあると思おもいます。目めが見みえること、耳みみが聞きこえることはあ

りがたいことです。年としを取とると目めも耳みみも悪わるくなつて、不ふ便べんと言いえば不ふ便べんですが、しかしその分ぶん、人ひとが悪わる口くちを言いつてもよく聞きこえないし、相あ手ての怒おこつた顔かおもはつきり見えな

いから、かえつていいかも知しれません。村むら上かみ先生せんせいの堪かん忍にんについでの御ご詠えいです。

憂うれきつらき心こころにそわぬことをみな善よきに悟さとりてよろこびを得えよ

何なに事ごともいほう方かたに考かんがえてゆくことが、愚ぐ痴ち不足ふそくを遠とほざけることに外ほかなりません。

今日きょう皆みなさんお寺てらに來こられたということは、歩あるくことができたわけですから、けつこうなことです。年としのせいあしで足あしの力ちからが弱よわくなり、

疲れやすくなったと言っても、こうして今あることはありがたいことです。

私も年とともに足腰が弱くなってきました。昔のように歩き回することはできませんが、しかし、こうして生きていられることはありがたいことだと感謝しております。

とにかく人間は欲が深すぎます。あれもできない。これもできない。というマイナス面ばかりをほじくり出すのでなく、あれができる。これもできる。とプラスの面、つまり、今あることの中に喜べることを探してゆくことが大切です。

シャバ世界は「忍土」であります。思う

ようにならないことがいっぱいあって、堪忍をしなければ生きてゆけない世界であります。苦しみ・悩みがあつてあたりまえの世界であります。今あることに感謝できるようにになると、三つぐらいある悩みも一つぐらいに減るかも知れません。

日本は今、各地に自然災害が起きて大変な状況にあります。経済の面でも不況で苦しいことはありますが、そうした中でもとにかく生かして頂けているのはありがたいことです。単純なことではありますが、これは生きてゆく上で基本中の基本であり、とても尊いことと言えます。

耳が聞こえる、目が見える、歩くことができる、食べることができることなど、普段は「あたりまえ」と思っています。決してあたりまえではありません。これらのことが自分の力でできない人はいっぱいなのです。そうした人々を引き合いに出すのは大変失礼とは思いますが、今の自分を

反省することに役立つとすれば、お許し頂けると思います。

日頃「あたりまえ」と思って振り返りもしないことの中に、ありがたいことを見つけて喜びに変えてゆくことが、法華経のよき心の薬を飲むことにつながってゆくのであります。